



# ひらほく新聞

ひらほく新聞で検索!

★ホームページ ひらほくランド★

http://www.hirahoku.com/

☆ホームページにて ひらほく新聞を閲覧・ダウンロード可能です!

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

## 愛されたい心援えられる 存在になるために

「愛され上手」。親から子へ、祖父母から孫へ、先輩から後輩へ、奇跡的に、必然に、出会った人から人へ。人を思う無償の愛情、優しさは、まさに日本人の愛の形。先人に学び、受け継がれてきた生きる上で最も大切な思い、「愛され、応援される存在になること」。ぜひ未来の子どもたちへ伝えていきましょう。

「人に愛される人」になれたら仕事が好き、人生も変わる! 何度かご紹介してきました博多の歴史・白駒妃登美さんの最新刊、「愛されたい!なら日本史に聞こう」をご紹介します。

大の歴史好きの白駒さん、2010年、完治したと思ったガンが肺に転移して、余命宣告、一時は死を覚悟しましたが、その時考えたのは、当時まだ小学生だった娘と息子に、親として限られた時間の中で何を遺せるかということ。

学校の成績なんかより、とにかく周りの人から愛され、応援される存在になってほしい…。それが、死を前に子どもにも求めた唯一のことだったそうです。その後、奇跡的に快方へ向かい、元気に生かされている今、「愛され、応援される存在になること」が、生きる上で最も大切だと思いが日々深まり、歴史上の人物の力を借りて子どもたちへ伝えたいことを一冊の本に込めました。

《以下、本書より》 「愛され上手、その魅力と秘密」 松陰の場合は、「あなたを丸ごと愛します」をまさに実践、弟子たちの自己重要感を満たすことで、

彼らが大きく羽ばたききっかけをつくりましたが、秀吉の場合は、みんなから愛され、応援されるようになり、それが自分自身の人生を切り拓くことに繋がりました。もしかしたら、地盤、看板、カバンも、誰かから与えられるものではなく、自分の手で育んでいく縁を大切に、目の前の相手に全力投球することで、相手の自己重要感が満たされ、その人が物心両面から応援し、支えてくれる存在になっていく…。 何ごとも自分次第、人生は捨てたものではありません。

なさい!」と強烈な言葉。 浮かぬ顔でそこに存在しているという感じが、いかに周りの人に迷惑をかけているか。自分の表情は、自分では鏡で見えない限り分からないが、周りの人はいつも自分の表情は目に入っていて、いつも上機嫌でいることは周りの人に対してしなければいけないこと。 「ブスツとした表情でいることは、「公害」といっしょ!」だど。

その後、小学校3年生の時、クラス替えで初めて出会った、いつも上機嫌の女の子。神様が幸せにしたいのは、私じゃなく絶対にこの子だ!この子のまねをしよう!と、家は遠かったけど毎日一緒に遊んで、その子のリアクションとか、一生懸命真似をした。 講演ですつと笑顔で、歴史上の人物を語る時に、まるで恋人のことを語るように、いつも嬉しそうに話す姿に、とても楽しくて、心からあたたかい元気をもらえるって言ってくれるファンも多い。

いまの私があるのは、お祖母ちゃんのおかげ、あの小学校3年生の時のクラスメイトのおかげ、そして、そうした下地があった今の出版に繋がっているとしたら、人生ってというのは、ホントすべて繋がってくる。その時々では、なんでこんな予期しないことが起きるんだらうっていうことも、必ずつじつまがあって、謎は未来になつたら解ける。だから、どんなことも受け入れて、毎日丁寧に生きていきたい。

◎彼女の魅力は何と云ってもあの笑顔と抑揚のある声。機会がありましたらぜひ、お聴き下さい。 「自分の機嫌ぐらい自分でとれなくてどうするの」。 ブスツとしていた幼少期のころ、「大人の中に一人ポツンとして、祖母に「妃登美、笑うか帰るか



(1400円+税)

## 母の想いと覚悟

9月22日、友人の主催した、森源太トーク&ライブに参加しました。愛あふれる源ちゃんの感動の語りからご紹介します。

大学3年のお正月に帰省した時に、母に「実はプロの歌手になりたか」と言われ、母はしばらく考えた後、「わかった。お母さんは何も言わんけん。あなたの人生はあなたのものやけんね。子どもの人生は親のものじゃなか。自分で歩いて行く道くらい自分で決めなさい。」そして、「大学は卒業させてやっけん。でもね、卒業したら、もうあなたにお金は1円たりともやらんけんね。自分の生きていくお金ぐらいいは自分で稼ぎなさい。この家は、もうあなたの暮らす場所じゃなけんね。自分の暮らす家くらい自分でちゃんと見つけて自力で暮らさなさい。」と突き放してくれたという。そして、最後に、

「あなたの人生に、口も金も出さんけんね。あなたのことは一人の人間として信じとっけん。そいが親の務めつてもんやけんね。」母がどれだけ強い想いと覚悟で自分のことを突き放してくれたことか、自らが人の親となり、そうしてもらってきたことが、本当に有難く、母の元に生まれて良かったと心から思った。

自分を支えてくれた人は、身近にいる両親だった。単身赴任の父親。母親がお父さんの所に行つて相談してきなさいという。重い気持ちで栃木へ向かい、父に会うも、何も切り出せない。すると父の方から、「この一年間はお前にとつて無駄ではなかったはずだ。迷っているなら、もう一年チャレンジしてみろ。」

そう、背中を押してくれた。その時、遅かったが、19歳にして、初めて親の有り難みを感じた。両親は、本当に無条件に自分を応援してくれている、守ってくれている、俺って、一人じゃないんだなって、すごく思えた。大学を落ちた時は情けなくて涙も出なかったが、父親に会いに行ったその夜は、布団のなかで泣きじゃくった。涙が止まらなかった。 始まった、浪人生活2年目。もの凄く集中できるようになった。 《裏面へ続く》

## 人生のターニングポイント

森源太ライブの主催者、友人の鈴木さんは学習塾の先生であり、経営者さん。90名の参加者のうち、小中高生が8割以上でした。源太ライブを主催したその理由とは? 感動のメッセージをご紹介します。

3ヶ月前に知人に誘われて、初めて聴いたライブ。深いメッセージがこもった唄、まず、最初に絶対に子どもたちに聴かせたいと思った。そして、うかんできたのは、「遠い昔の自分」。自分に自信がない時期、自分が好きではない、19歳の時。

高校三年生の時、何にも気持ちも入らずに目標もなかった。それで甘い気持ちで受けた大学受験、全部落ちた。当時、浪人が相当多かったので、そんなにシヨクシヨクじゃなかった。そして、当たり前のように親にお金を出してもらって、浪人予備校生活。それは当たり前じゃなかったのに、その時気づかずに葛藤のなか一年を過ごし、受けた再度の受験、10校全部落ちた。周りの友達は全部希望の大学に受かって、自分だけが落ちた。初めて感じた孤独感、挫折感、すごくみじめだった。自分ってダメ人間なんだ。情けなくて涙も出なかった。その後どうしようかなと、すごく悩んだ。

自分を支えてくれた人は、身近にいる両親だった。単身赴任の父親。母親がお父さんの所に行つて相談してきなさいという。重い気持ちで栃木へ向かい、父に会うも、何も切り出せない。すると父の方から、「この一年間はお前にとつて無駄ではなかったはずだ。迷っているなら、もう一年チャレンジしてみろ。」